

読む

ようすや こうどうを よみとろう (一)

「子どものすきな神さま①」

名前

子どもの すきな 小さい 神さまが ありました。いつもは 森の中で、うたを うたったり ふえをふいたりして、小とりや けもの と あそんでいましたが、ときどき 人の すんでいる 村へ 出てきて、すきな 子どもたちと あそぶのでした。

けれど この 神さまは、い子ども すがたを みせたことがないので、子どもたちには ちっとも わかりませんでした。

ゆきが どっさり ぶった つぎの あさ、子どもたちは まっ白な のっぱらで あそんでいました。すると ひとりの 子どもが、

「ゆきの上にかおを うつつそうよ。」
と いいました。

そこで 十三人の 子どもたちは、こしを かがめて まるい かおを まっ白な ゆきにおしあてました。そうすると、子どもたちの まるい かおは、一れつにならんで ゆきの上 に うつつたのでした。

「一、二、三、四、……」
と ひとりの 子どもが かおの あとを かぞえて みました。

どうした ことでしょう。十四 ありました。子どもは 十三人しか いないのに、かおの あとが 十四 あるわけが ありません。

きっと、いつもの みえない 神さまが、子どもたちの そばに きているのです。そして 神さまも、子どもたちと いっしょに かおを ゆきの上 に うつつたのに ちがいありません。

いたずら ずきの 子どもたちは、かおを みあわせながら、目と 目で、神さまを つかまえようよ、と そうだん しました。

(新美南吉作 にいみなんきち 子どもすきな神さま)

【1】子どもの すきな 神さまが いつも している ことを えらんで ○ を つけましょう。

- () 村で 小とりや けもの と あそぶ
- () 森の中で 小とりや けもの と あそぶ
- () 村で すきな 子どもたちと あそぶ
- () 森の中で すきな 子どもたちと あそぶ

【2】ゆきが どっさり ぶった つぎの あさ、子どもたちは どこで あそんで いましたか。 の 中にかきましよう。

【3】子どもたちは、どのようにして ゆきの上にかおを うつつましたか。 のところをよんで の 中にかきましよう。

をかがめて

かおを

ゆきにおしあてた

【4】子どもたちは、なぜ、神さまが そばに きている と思ったのですか。あてはまるもの に ○ を つけましよう。

- () 子どもは 十三人しか いないのに、かおの あとが 十四 あったから
- () ゆきの上にかおを うつつしている 神さまの すがたが みえたから
- () 森のおくから、神さまの 声が きこえたから

【5】子どもたちは、かおを みあわせながら 目と目で どんな そうだんを しましたか。

の 中にかきましよう。

※もとの文しようの「ぶをかえています。

」おにごっこしよう。」

「しよよよ、しよよよ。」

しよして、ひとりの子がリーダーになり、あ

との十二人が、一れつにならびました。

「きをつけッ。ばんごうッ。」

とリーダーがごうれいをかけました。

「一ッ。」

「二ッ。」

「三ッ。」

「四ッ。」

「五ッ。」

「六ッ。」

「七ッ。」

「八ッ。」

「九ッ。」

「十ッ。」

「十一ッ。」

「十二ッ。」

と十二人の子どもたちがばんごうをいってしま

いました。そのとき、だれのすがたもみえない

のに、十二ばん目の子どものつぎで、

「十三ッ。」

といった人がいました。玉をころがすようなよ

いこえでした。

そのこえをきくと子どもたちは、

「それ、そこだッ。神さまをつかまえろッ。」

といて、十二ばん目の子どものよこをとりま

きました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子どものことだから、つかまったらどんなめにあうかし

れません。

ひとりの子どものまたの下をくぐって、神さまは森へにげかえりました。けれど、あまりあ

わてたのでくつをかたほうおとしてきてしま

いました。

子どもたちはゆきの上から、まだあたたかい

小さな赤いくつをひろいました。「神さまはこんな小さなくつをはいてたんだ

ね。」

といてみんなでわらいました。

そのことがあってから、神さまはもうめったに森から出てこなくなりました。それでもやはり子どもがすきなものだから、子どもたちが森へあそびにいくと、森のおくから、「おおい、おおい。」とよびかけたりします。

(新美南吉作 にいみなきち 子どものすきな神さま)

【一】一れつにならんでいる子どもはなん人居ますか。あてはまるかずをかん字でかきましよう

[]

人

【二】「十三ッ。」といったのはだれですか。 [] の中にかきましよう。

[]

【三】神さまはどんなくつをはいていましたか。 [] の中にかきましよう。

[]

くつ

【四】「子どものすきな神さま①、②」をよんで心にのこったところをえらび、かん字をかきましよう。

[]

読む

ようすやこうどうをよみとろう(3)

「小人のくつ屋さん①」

名前

あるところに、くつ屋さんがおりました。自分がわるいことをしたわけでもないのにとにかくお金がなくて、一足のくつを作るだけの皮かわしかもうのこっていません。あるよる、あくるあさにしたてようと皮をたちきっておきました。^{※1}ころねのよい人でしたから、ひそやかにベッドでよこになりながら、おいのりをとなえつつ、ねむりにおちます。あさになって、おいのりしたあとで、さてしごとにとりかかろうとすると、気づけば一そくのくつはどうにしががりでき上がっていて、つくえにちよこなんとたてられているのです。びっくりたまげた その人は なんともいえずに、まぢかに見てみようと、くつを手にとりました。すばらしいできのくつで、ぬい目もすんぶんまぢがいなく、まるで、^{※2}たくみの手になるものよう。まもなく、おきやくさんがやってきましたが、もう大まんぞくでしたので、よけいにお金をしはらってくれました。つまりこんどは二そくぶんのくつが作れるほどの皮がかえたわけです。そしてよるになって、あくるあさ、気もちもあらたにしたてようと皮をたちきっておきました。ところがその手はかからずじまい。というのも、おきたときにはもうでき上がっていたからで、おきやくさんにとってももうしぶんなし、お金がたんまりふどころにはいって、つぎには四そくぶんのくつが作れるだけの皮が ^{※3}あがなえました。さらにあくるあさはやくには、しがあつた四そくのくつ、こんなちようしがどんどんつづいていきます。よるにたちきっておけば、あさにはかかってでき上がっています。たちまちくらしもたつようになり、とうとうお金もちになりました。

(グリム兄弟作 大くぼゆうやく小人のくつ屋さん)

※1 ころね … 本とうのころ

※2 たくみ … じょうずな人

※3 あがなう … 手に入れる

【1】その人とはだれですか。あてはまるものに○をつけましょう。

() くつ屋さん

() おきやくさん

() 小人

【2】 その人が「びっくりたまげた」のはなぜですか。あてはまるものに○をつけましょう。

() 一そくのくつをつくるだけの皮しかなかったから

() 気づけば一そくのくつができて上がっていたから

() おきやくさんがよけいにお金をしはらったから

【3】 のようにおきやくさんが大まんぞくしてよけいにお金をしはらってくれたのはなぜですか。 の中にあてはまることばをかきましよう。

できのくつで、

ぬい目もすんぶん

まるで、たくみの手になるものようだったから

【4】 くつ屋さんが、お金もちになったのはなぜですか。あてはまるものに○をつけましよう。

() 自分で作ったくつがたくさんうれたから

() いつのまにかでき上がったくつがたくさんうれたから

() おきやくさんにもらったくつがたくさんうれたから

読む

ようすや とうどうを よみとろう (4)

「小人のくつ屋さん②」

名前

クリスマスもちかいあるよる、皮もたちおわったくつ屋さんは、ベッドに入るまえにおくさんにいいました。

「こんやためしにねずのばんをして、どなたが手だすけしてくれているのか、たしかめてみるのはいかがね。」

おくさんもうなずいて、あかりもつけておくことにしました。へやのすみにひそんで、じぶんたちのまえにはふくをかけておいて、そこからのぞきみるのです。するとよがふけたころ、目にとびこんできたのは、ふたりの小人さん、ふくはなにもきておらず、くつ屋さんのしごとづくえのまえにじんどると、したくずみのしごとにとりかかり、まずはぬって、ちくちくとんと、小さなゆびで、^{※1}たくみにすばやく、くつ屋さんも目をなせず、^{※2}どぎもをぬかれてしまいました。手をとめないまま、やがてでき上がると、つくえの上にもちよなんとたてて、ぴよんととびおりてはしりさっていきます。

あくるあさ、おくさんがくつ屋さんにいうには、「あの小人さんたちが、わたしたちをお金もちにしたのですから、おれいをしなくちゃなりませんよ。はしりまわっているのに、なにもみにつけるものがありませんから、さむそうでかありません。よろしいですか、ちいさな下ぎに、上ぎに、それからチョッキとズボンをぬきますよ。それに一そくずつ、くつ下もぬいますから、あなたはそれぞれに、くつを一そく、作ってあげなさいな。」

だんなさんも、せひにということで、そのよる、しごこをやり終えると、たちきった皮のかわりに、こころづくしのおくりものを、つくえにそろえておいて、小人たちがどうふるまうのか、見とどけることにしました。

(グリム兄弟作 大くぼゆうやく小人のくつ屋さん)

※1 たくみ … じょうずな人

※2 どぎもをぬく… びっくりさせる

【1】クリスマスもちかいあるよるくつ屋さんとおくさんは、そうだんしてなにをしましたか。また、それはなぜですか。□の中にあてはまることばをかきましょう。

をして

たしかめてみるため

【2】くつ屋さんを手だすけしていたのは、だれですか。□の中に かきましょう。

【3】□のところをよんで小人たちがしたことのじゆんに1、2、3のすう字をかきましょう。

- () 小さなゆびでたくみにすばやくぬう。
- () しごとづくえのまえにじんどる。
- () できあがったものをつくえの上にあてる。

【4】□の「こころづくしのおくりもの」とはどのようなものですか。□の中に六つかきましょう。

読む

ようすや とうどうを よみとろう (5)
「小人のくつ屋さん③」

名前

名前

よもふけて、とびこんできた小人さんたちが、さあしごととおもったところ、見つかるのは皮かわ

のきれではなく、ぴったり体にあった小ぎれいな※おめしもの。小人もびっくりたちすくみましたが、たちまちうれしくなつてためしてみます。そわそわどたばた、すてきなおめしものを手にとつてきこむと、うたをうたつてくれました。

さ ぼくらも おしゃれさん！

もう くつ屋は にあわない！

そして小人さんたちは、足ぶみしながらおどりまわり、いすにつくえにとびはねて、とうとう戸口とぐちからおどり出ていきました。そのときいらい、小人さんたちは出てこなくなりましたが、生きているあいだ、くつ屋さんはなんでもうまくいきましたし、やることもみんな大せいこうでした。

(グリム兄弟作 大くぼゆうやく 小人のくつ屋さん)

※おめしもの…:きているもの、ふく

【1】小人さんたちはおめしものをきこんでいるときどんな気もちでしたか。あてはまるものに○をつけましょう。

- () びっくり
- () うれしい
- () かなしい
- () いらいら

【2】 をよんで小人さんたちのようすにあてはまることばを の中に かきましよう。

しながら

、いすに

つくえに

とうとう、戸口から

いきました

【3】「小人のくつ屋さん①、②、③」をよんで心にのこったところをえらび、かんそうをかきましよう。